

団体の概要 (N G O / N P O 用)

団体名 **特定非営利活動法人伊万里はちがめプラン**

所在地	〒848 -0022 佐賀県伊万里市大坪町乙 2436-1 TEL: 0955 - 22 - 4058 FAX: 0955 - 22 - 4058 E-mail: hatigame@orion.ocn.ne.jp		
ホームページ	http://hachigame-plan.org		
設立年月	平成4年4月 * 認証年月日 (法人団体のみ) 平成15年5月28日		
代表者	福田 俊明	担当者	福田 俊明
組 織	スタッフ 6 名 (内 専従 5 名) 個人会員 300 名 法人会員 20 名 その他会員 (賛助会員等) 70 名		
設立の経緯	生ごみや廃食油を捨てる側であった飲食店、旅館業の両組合員が「生ごみを税金で焼却するのは“もったいない”何か活用できないか…」と「生ごみ資源化研究会」を発足させ、調査や研究を始めたのが平成4年である。 そこから見てきたものは大量生産、大量消費、大量廃棄という一方通行による環境の「環」を切断した現代の社会システムの“おかしさ”であった。 平成10年より佐賀県商工会連合会主催の「地域ゼロエミッション研究開発事業、ごみを宝に！」にプロジェクト委員として参加することによって、生ごみ堆肥化に関して、更に多くのことを学ぶこととなった。平成12年伊万里商工会議所に事業が継承されると同時に、はちがめプラン堆肥化実験場(生ごみ3トン/日)が完成、実用化に向けた微生物による生ごみ堆肥化実証実験を佐賀大学の支援を受け、本格的に開始し、継続的な実験活動を行う中、NPO法人として認証を受け、食資源循環による地域の活性化と環境保全啓発運動を展開し、今日に至っている。		
団体の目的	伊万里地域(全国地方自治体)が抱えるごみ問題を解決するため各種団体、行政、農業者(事業者)、市民、大学が協力して「ごみ減量」という課題に取り組むと共に資源循環型社会構築を目指した生ごみや廃食油その他有機性廃棄物の資源化・リサイクル活動を行い、素晴らしい現在の、この伊万里の環境を守り、未来の子供達へ手渡すことを目的に活動を行っている。		
団体の活動プロフィール	最初、生ごみ分別協力者3事業所から始まった生ごみ堆肥化活動も微生物の培養実験、市民への環境保全啓発運動を経て、平成12年生ごみ堆肥化実験プラントが完成、現在では生ごみ分別協力64事業所、一般家庭生ごみステーション26ヶ所220世帯の参加を得ている。 年間650トンの生ごみを回収、(伊万里市の生ごみの17%削減)、ゆっくりと醗酵熟成させ、300トン/年の有機質豊富で良質な堆肥を生産、佐賀大学農学部との支援と協力によって堆肥の分析調査、作物の栽培実験などを行い農家やガーデニング愛好家に好評である。15年度事業として農産物直売所を開設し、環境保全型農業の推進と市民参加による菜の花プロジェクト活動(景観の美化、安全な菜種油、廃食油の燃料化)を展開、地産地消を推進している。 代表の福田は佐賀県環境サポーター(地球温暖化防止推進員)、環境カウンセラーであることから、生ごみ堆肥化、菜の花プロジェクト活動などの実践を通して、小中高校(年間10校)での総合学習の時間を活用し、体験学習による環境教育を行っている。また、県内外各地での環境講演会(17年度39ヶ所)や全国各地(55団体1079名)からはちがめプランの活動や堆肥化プラント見学研修者を受入、講話を実施し、食資源循環による環境保全と地球温暖化防止を訴えている。		

活動事業費 (平成17年度) 20,153,000 円

政策のテーマ

環境と資源の好循環のまちづくり

■ 政策の分野

- ・ 循環型社会の構築
- ・ 持続可能な地域づくり

■ 政策の手段

予算・資金措置 環境教育・学習の推進 地域活性化と雇用

団 体 名：特定非営利活動法人伊万里はちがめプラン

担当者名：福田 俊明

1、政策の目的

地域社会が一体となって資源循環型社会の型成や地球温暖化防止を推進するため、事業者（農業者含む）各種市民団体、市民、大学、行政等が協働して「ごみ減量」による環境保全という課題に取り組み、地域の資源である生ごみや廃食油、ダンボール箱、選定枝葉、籾殻、籾屑、などの廃棄物を活用し、リサイクル活動を行う。生ごみ堆肥を利用し、環境保全型農業の推進や市民と農業者が協働して菜の花の栽培を行い、安心、安全な「農作物」と「菜種油」を生産する。このような食資源循環活動の実践的体験を通じて、環境保全普及啓発運動を行い、環境負荷の軽減による地球温暖化防止や青少年の健全育成に貢献しようとするものである。

2、背景および現状の問題点

50億年も長い年月をかけて出来上がったオゾン層が、美しい緑の地球や生物を守り育て、私達人類も誕生した。それを人間は豊かさと便利さとを引き換えに、わずか「100年」で壊そうとしている。

急激な経済発展によって発生したCO₂やダイオキシンは地球温暖化・環境ホルモンなどなど環境破壊の原因となり、人類のみならず物言わぬ生物たちの生命も危うくしている。伊万里市（平成11年、人口6万人）における可燃ごみの消費量1日41トン、年間4億2,500万円もの大金で焼却処分し、2,353トン/年の焼却残灰を生産している。また、廃食油は不法投棄等で河川の汚染や整備されつつある下水管の梗塞につながり、その維持管理面での「行政経費」の増大を招くものと思われる。

また、「食品リサイクル法」によって平成18年度までに食品残渣の20%削減が自発的責任として義務化されている。このような社会の諸問題を解決するためにも、市民が日常生活によって排出する生ごみや廃食油、その他有機性一般廃棄物の資源化による有効活用は緊急な課題である。

3、政策の概要

一般廃棄物対策による生ごみゼロのまちづくり運動

- ・市民自らによる生ごみステーションを各地に設置、生ごみ廃食油の分別、回収
- ・割り箸、商店街のダンボール箱、街路樹、公園の選定枝葉、落ち葉などを回収
- ・上記の資源を微生物の力によって醗酵熟成させ、良質の堆肥を生産する。

本事業計画では、エネルギー消費量の少なく環境負担の少ない方法による有機性廃棄物の資源化を提案する。生ごみをはじめ、廃食油、割り箸、ダンボール箱、公園、街路樹の剪定枝葉、落ち葉など、焼却処分されていた物を、微生物豊富な有機堆肥として地域の大切な資源に変えることで、可燃ごみの30%以上の減量が可能となり、化石燃料の節約と焼却残灰の減量とともに、

CO₂、ダイオキシンの削減による地球温暖化防止など環境保全に繋げる。

菜の花プロジェクト活動

- ・休耕田に生ごみ堆肥を活用した菜の花栽培を行う（小中高、大学生、市民ボランティアの参加）
- ・普及啓発として「菜の花まつり」、「“環境杯”生ごみを宝に！地域を菜の花色に！グランドゴルフ大会」などのイベント開催。
- ・菜種油の精製、廃食油のバイオマスディーゼル燃料化

地元の農業者の協力を受け、休耕田や畑に生ごみ堆肥を施し、日本の原風景である菜の花畑を復活させ、景観の美化を図ると共に、安心、安全な菜種油を生産し、学校給食や病院、市民に提供する活動を推進する。使用後の廃食油はBDF（廃食油ディーゼル燃料）としてトラクターや公共の車輛、公共の施設の暖房などに活用する。更に「菜の花まつり」や「菜の花グランドゴルフ大会」を開催し、絵画、写真、料理コンテストなどを実施、様々な人々との交流・対話の場を提供し、老人や障害者の社会参加による生甲斐づくりに繋げる。

環境教育・学習会の推進

- ・ 環境講座を開催、環境サポーター(指導者)の養成
- ・ 環境講演会・フォーラムなど開催、広く市民への啓発活動を行う
- ・ インターンシップ活動として、中高校生に対し、生ごみ堆肥化、菜の花の栽培などによる体験学習を行う。
- ・ 環境学習、総合学習の場を行政と協力し、整備する。

環境意識の向上のために、あらゆる世代や社会人グループについて環境教育・学習を推進してゆく必要がある。そのための「場」の設定、機会の創出はもちろん、環境サポーターなどの人材育成。環境に関する教材・情報の提供などを総合的に行う。また、子供達の環境教育・学習の効果を挙げるため、小中高校、佐賀大学、教育関係者との連携協力で、生ごみの堆肥化、菜の花栽培・菜種油生産・廃食油燃料化、直売所での販売などの体験学習を通じてものの豊かさから心の豊かさへ、環境学習を実施し、青少年の健全育成に貢献する。

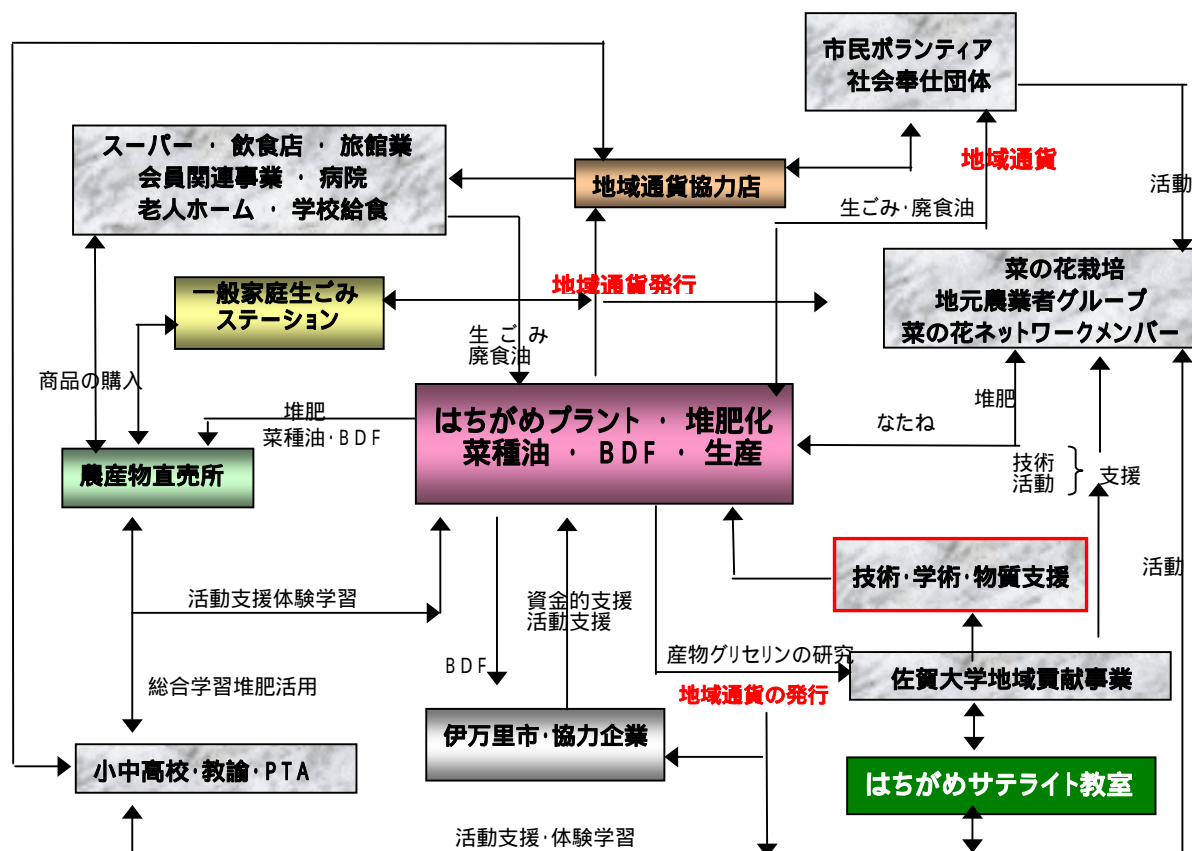
4、政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

【実施方法】

一般家庭及び飲食店、旅館業、その他食品関連の事業者、特に大病院。大型スーパーなどは、自ら生ごみの分別、及び廃食油の回収資源化に協力していただけるように、啓発運動を展開する。

回収した生ごみを含む有機性廃棄物は、「はちがめ堆肥化プラント」によって醗酵熟成させ、良質な堆肥にかえ、農業者の協力を受け、休耕地を活用し、菜の花栽培を実施する。

市民の力で日本の原風景である菜の花畑を復活させ、里地里山を楽しみ、景観の美化を図るとともに安全な菜種油を生産し、学校給食や病院、老人ホーム、市民に提供する。使用後の油はBDFに精製し、自動車の燃料として活用する。このような資源循環活動を、より推進させるための潤滑油として「地域通貨」を発行する。生ごみから自動車を動かす燃料になる！このような地域資源の循環を継続体験する事によって、市民が自ら環境保全活動に対する認識の高揚を図る。



はちがめプランのプラント研修室と佐賀大学の「サテライト教室」を活用して、視察、見学、環境体験学習など、環境サポーター、環境カウンセラーの福田が中心となって佐賀大学の協力を受け、環境啓発活動と環境教育を実施する。

5、政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

初年度はNPO法人伊万里はちがめプランが主体となって実施する。本NPOは、飲食店、旅館業、食品関連事業所、佐賀大学、地域住民等が参画、これに地元農業者グループ、伊万里市農協青年部、商店街組合、各種市民団体、小中高校関係者等が協力し、地元行政が側面支援を行う。

次年度からは活動を広める中で、“環境と資源の好循環のまちづくり”実行委員会を組織し、新たな活動主体を型成し、継続発展させる。

6、政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

- ・ 燃えるごみから生ごみ、廃食油その他有機性廃棄物（ダンボール、街路樹や公園の剪定枝葉、刈草、籾殻、籾屑）などを資源化することによって化石燃料の削減、焼却残灰の減少などで行政経費の節約になり、CO₂やダイオキシンなどの環境保全問題にも貢献する。さらに、生ごみや廃食油を堆肥や自動車の燃料に変え、商品として流通させることによって新たなエココミュニティビジネスと雇用が生まれる。
 - ・ 生ごみ堆肥化事業や菜の花プロジェクト活動の中心に高齢者や障害者の参加を促し、社会貢献による生甲斐づくり、更に小中高校の総合学習やオンリーワン教育と連携し、青少年の健全育成を図る。また、廃食油燃料（BDF）を活用し、過疎地や市街地にシャトルバスを走らせ、高齢者や子供たちの交通手段の確保が可能となり、環境と教育、福祉の町づくりとして発展する。
 - ・ 活動によって生産される商品の取引に地域通貨を活用し、地元で流通させることで、地産地消が促進され環境と経済の好循環の町づくりが構築される。
- 食品リサイクル法での生ごみ等食品残渣の削減率20%義務化を地方自治体として達成可能であり全国のモデルとなる。

7、その他・特記事項

はちがめプランが取り組んでいる生ごみ堆肥化、廃食油燃料化などの事業活動は、平成13年5月1日「食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律」（食品リサイクル法）が施行されているにもかかわらず、多くの市町村では可燃ごみの減量のために、必要性は認めていても実施されていないのが現状である。しかし、食資源の循環は、限られた資源国であるわが国では絶対に必要不可欠であり、資源循環による持続可能な社会の基礎となる重要な活動であると自負している。

平成14年12月、政府は「バイオマス日本総合戦略会議」を発表し、バイオマス資源の利活用を推進しているが、地域に「広く浅く」存在するバイオマス資源を集約化して利活用する為にはコミュニティの復活によって、住民、企業、行政の各主体が地域内での環境認識と連携能力を向上させ、パートナーシップによる実践活動を通して、回収効果を高めることが必要となっている。

2005年、タイ国での地域環境活動調査事業に参加。この事業は東京の「NPO法人元気ネット」が全体の推進と実施管理を担当し、佐賀大学、伊万里はちがめプランとが協働して生ごみ堆肥化の技術指導と、コミュニティ活動によるネットワークづくりに対する調査と支援事業を、バンコクのチュラロンコン大学の協力を受け、ウボン県とグラビ県の2ヶ所を実施、素晴らしい体験ができた。

はちがめプランのこれまでの活動に対して

- 平成15年度：156回 通常国会提出の循環型白書記載
- 平成16年度：内閣府による国民生活白書、九州農政局による九州農業白書記載
- 平成17年度：子供環境白書記載、総務省による地域再生実践塾の開催
- 平成17年度：新エネルギー財団会長賞、「立ち上がる農山漁村」として認定
- 平成18年度：リユース・リユース・リサイクル推進協議会 功労賞授賞

NHK放映

- 平成15年 6月11日：地球大好き！環境新時代 第7回（総合）
- 平成17年12月14日：とれたて！さがん情報市「生ごみゼロのまちづくり」（総合）
- 平成18年12月 8日：ビジネス未来人「生ごみを宝に変えるレストラン」（教育）